特集２

自己をみつめ、自らを高める 道徳教育の推進

―義務教育課―

はじめに

今回の学習指導要領の改訂に当たっては、道徳教育の現状を踏まえ、よりよい生き方を求め実践するという観点に基づき、大幅な改善を行った。それは、道徳教育の内容の再構成と重点化を図り、家庭や地域社会との連携を深めて、学校教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図ることである。

児童生徒の意識や行動は年々多様化し、いじめ、登校拒否、自殺、社会規範の欠如等の病理的現象が顕著に見られるようになった。

これら児童生徒の問題行動の解決を図るためには、「豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育生を図る」ことをねらいに、今後「人間としての在り方生き方についての自覚を深める道徳教育」の推進に努めることが、特に望まれている。

一、道徳教育の課題解決のための内容項目の取り扱い

本県においては、各小・中学校とも、道徳教育の全体計画、年間指導計画の作成に努め、新学習指導要領に即した道徳教育の展開を図っている。しかし、今回の改訂の本旨からみて、必ずしも十分とは言えない状況である。

各小・中学校の道徳教育の課題に

資料１　N中学校の年間指導計画（一部）

主題名	広　い　心	価値項目	2－(5)
資料名	こわれた文ちん	関連項目	4－(5)

ねらい　○　それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方を理解して、謙虚に他に学ぶ広い心をもつように努める。

学習活動（教師の発問等）	指導上の留意点（学校・家庭の連携等）
○　兄弟の中で、親から差別されたと思ったことがあるかどうか話し合い、興味・関心を持つ。 ○　資料「こわれた文ちん」を読み、話し合うことにより、場面情勢を分析し問題を深める。 ・「文ちんに託している、洋の切ない願い」とは何か。 ・「やり場のない健の不満」とはどんなものか。 ・「ぼくも少しはつつしまなけりや」と言った健の気持ちはどんなか。 ・「洋の気持ちはしだいにほぐれていった」ときの洋の心の中はどんなだったか。 ○　兄弟でも同じものの見方、考え方をするかどうか、自己の立場に引き比べて考える。さらに、他人とはどうかも考え、性格の異なる人と社会生活を円滑にするための心構えを自覚する。 ○　父母が自分の子供達（兄弟）をどう思っているかを聞き、これを契機に、相手の個性や立場を理解し、尊重する広い心の大切さを再確認する。	○　ものの見方や考え方が自己中心的で広い心からの判断力に欠ける傾向をもつ子供達に、自分達の身近な家庭生活上十分に起り得る資料であるので、資料を十分に活用して心情に訴えて指導して行きたい。 ●　「自分の子供達を比較し、それぞれの性格をどのように理解しているか。また、兄弟で差別などしていないかどうか」という感想を家庭に書いてもらい、授業の終末において、そのいくつかを紹介し、広い心の大切さを再確認する契機としたい。 ○　実践との関連等 日常生活全般
第２資料名　わたしの気持ち	
指導の大要　中学生の時期は大なり小なり反抗期をむかえており、謙虚な心をもって、自己のよりよい生き方を求めようとする態度に乏しいといえる。この資料では、祖母から教えられた通り我慢することが親孝行と思っていた主人公の気持ちが次第に変化し、セーターの買い物で母親の意見を無視して失敗し、謙虚な心が大切であると気付く内容である。したがって、自分達の身近な家庭生活において、十分に起り得る資料であるので、自己の立場に引き比べて検討させて行きたい。さらに、最近の自分の子をどのように感じているかという父親の感想を紹介し、今までの反省をうながし、広い心の大切さを自覚させていきたい。	

そって、道徳教育の充実に努めることが重要であるので、その観点を述べてみる。

(1)　児童生徒、学校、地域の実態、教師および保護者の願いなどの実態を踏まえ、教育目標具現化の視点から道徳教育の課題を明確にしたか。

(2)　学校の道徳教育の重点目標、学年ごとの指導の重点・内容の検討が児童生徒の発達段階に即して行われたか。

(3)　重点的指導事項を設定するに当たって、学習指導要領改訂の趣旨を生かす配慮がなされたか。

二、学校教育全体で行う道徳教育

道徳教育は、児童生徒が生活するすべての場面で行われることが基本であり、学校での全活動を通して、児童生徒や地域の実態に即して、計画的、具体的に指導されなければならない。そのためには、諸計画の整備を図る必要がある。

1．機能する全体計画

道徳教育は、道徳の時間の指導はもとより、各教科、特別活動、その他の場と機会のすべてにおいて行われることが大切である。そのため、道徳教育の展開に機能する道徳教育の全体計画の改善・充実が望まれる。

全体計画の内容は、各学校独自に作